

## 岩手県農業公社が支援する

### 「粗飼料生産支援システム」



#### 岩手県農業公社の概要

当公社は、理事長竹内重徳（県副知事）、常勤役員として副理事長、職員は総務部、農地利用促進部、担い手対策部、施設建設部、農地整備部の4部体制で90人（県内18市町村配置した駐在員含む）在籍している。農地利用促進部は、農地保有合理化事業を実施しており平成15年度は143haの農用地等を買入れ、378ha借り入れて、担い手農業者に集積・配分した。

担い手対策部は、青年農業者等育成センターの機能を持ち、新規就農者の確保等に努めている。

施設建設部は、畜産公共事業を実施しており平成15年度は県等からの受託を含めて3,031百万円を実施した。

農地整備部は、公社保有機械により農地改良、暗渠排水等で582haの農地整備345百万円を実施した。また16年度からは公社単独事業による非補助の草地更新及び暗渠敷設工事など農業者の負担軽減を図る工夫をした新たな事業に取り組み始めた。

#### 県内粗飼料生産・流通体制支援事業

総合公社として多面的機能を有し、地域の農業振興に貢献している公社であるが、今年度から施設建設部では、国の補助事業を活用し「県内粗飼料生産・流通体制支援事業」を創設し、県内2カ所で実施した。その内容について説明する。

#### 取り組みの経緯

本県の畜産は、乳用牛飼養頭数58,200頭、肉用牛飼養頭数108,700頭（いずれも16年2月1日現在）と大家畜生産が盛んではあるが、従事者の高齢化や労働力不足等により飼養頭数は年々減少傾向にある。

また、大半の畜産農家は、「粗飼料はできるだけ自給して、かかる経費を小さくしたいが家族経営だけでは手が回らない、頭数はこれ以上増やせない」という状況にあり、家畜の飼養管理と粗飼料生産の分業による経営の効率化が強く求められているとともに、栄養価の高い飼料作物の増産を図る必要があった。

#### 事業の概要

本事業は、公社が畜産農家から粗飼料生産（デントコーン）に係る作業を受託し、公社保有機械により、草地を飼料自給率向上に寄与する畑地へ転換する工事（公社直営施行による畑地転換工事）を行う。また、公社はコントラクターに作付けから収穫、さらにはラップされた状態で畜産農家に宅配する、までの作業を委託する。という事業である。

コントラクターに対しては、粗飼料の収穫・調整作業に最適な細断型ロールペーラと宅配に必要な運搬車を、公社が補助事業を導入して貸し付ける。

本事業により、畜産農家にとっては時間的ゆとりができて増頭につながるほか、良質の粗飼料を確保できる。更に地域におけるコントラクター組織の育成が図られる。

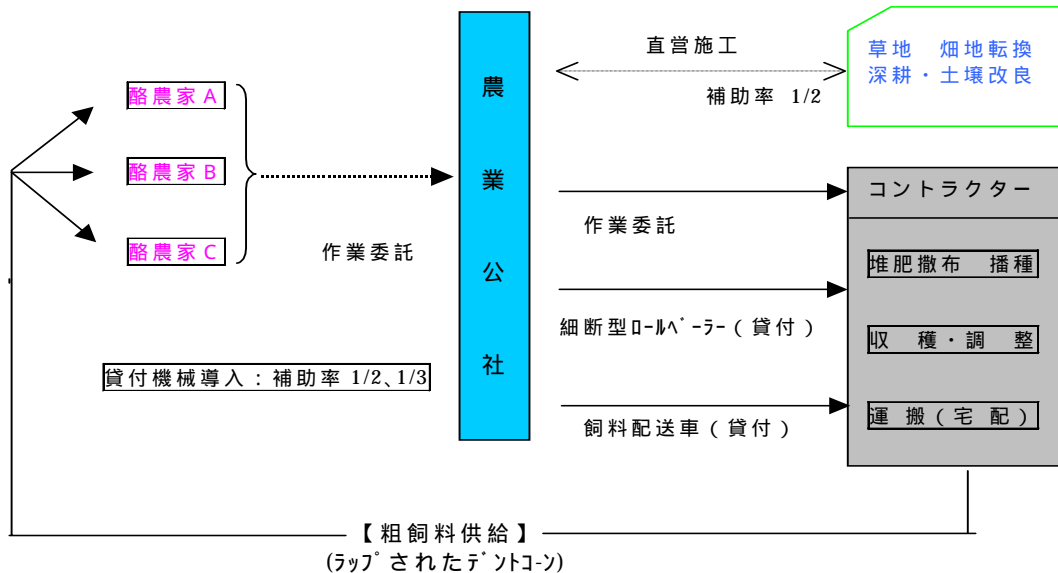
事業組み立ての発想は、第1番目には公社の保有するブルド・ザの仕事の確保であり、草地の傾斜を飼料畑に修正する事で仕事が増えたら良いなあ。という点。2番目は保有合理化事業の確保で、イメージとしては公共牧場（県内には157ある）を公社が借りて、起伏修正し、地域の畜産農家に貸せたら良いなあ。という点。3番目は畜産農家の情報で、コントラクターは「今作業している草地は更新時期だ」とか「畜産をやめたがっている」とか「頭数を増やそうとしている」という情報を持っているはずなので、

つながりを持ちたいなあ。という点。4番目は「公社でこんな事もやっている」という事をアピールしたいなあ。という点。

2番目の件については2年ほど前にも試みたが、地理的環境、時期が重なる等、かなり難しかった。

それぞれの思いはあったけれど、何よりも大事なものは、「畜産農家が元気になってほしい」という気持ちであった。

【事業フロー図】



【補助事業の内容】

事業名	市町村	事業主体	事業の内容		事業費 (千円)	補助金 (千円)	備考
			施設の種類の	施設等名			
生産振興総合対策事業 飼料対策事業 自給飼料増産総合対策事業	葛巻町 滝沢村	(社)岩手県農業公社	畑地転換工事	葛巻町 5ha	2,000	1,000	
				滝沢村 5ha			
			細断型ローラー	2台	6,510	3,255	
			飼料運搬車	2台(2t4WD)	9,975	3,325	
計					18,485	7,580	

導入された細断型ローラー



導入された飼料運搬車



## 事業のねらい

本事業を創設したねらいの1つは、飼料自給率の向上・改善を図ることにある。県内の酪農における飼料自給率は31%（平成14年度）に過ぎず、畜産農家は海外産の飼料に依存している現状にある。コーンサイレージは牧草サイレージと異なり、繊維成分とともにでんぷん質が大量に供給できるため、飼料自給率の向上・改善に実質的に貢献しうる粗飼料である。サイレージを推進するためには、飼料用トウモロコシの生産拡大を図る必要がある。

2つめは、畜産農家の生乳生産と飼料生産の分業化を図りたい。このことにより、畜産農家の規模拡大志向を高めれる。

3つ目は、コーン畑地には大量の堆肥を毎年必要とすることから、農家が悩んでいる堆肥の処理という問題が解決されやすい。

4つ目は、公社事業の普及・啓発にある。本事業をアピールして実績を残すことで、畜産農家が今何を求めているかの情報、地域のコントラクターと連携する機会を持ちながら、地域内の農家個々の情報の収集を図ることができ、また農地保有合理化事業を初め、農地整備部の非補助事業の掘り起し等、公社機能をPRできるとともに、更なる公社事業の普及を図ることができる。

## 法人コントラクターの組織化

県内には、酪農が1,830戸、肉牛が10,100戸あるが、畜産農家に関するコントラクターは14しか組織されていない。

コントラクターの数が少ないのは、作業量の安定的な確保 周年稼働が困難 機械装備が負担 等が考えられる。

しかし、畜産農家どうして草刈り、乾燥調整等を共同で作業をおこなっているというのはかなりの数があった。

## 法人設立指導

畜産農家から粗飼料生産等に係る作業を請け負う組織をコントラクターと呼んでいる。本事業では、事業に関連して、2つの法人コントラクター法人（有限会社「メグミファーム」、農事組合法人「葛巻百笑組合」）を立ち上げた。立ち上げにあたって、法人設立に必要な設立総会、定款の作成を初めとする法人登記までの事務の大部分を公社が手伝った。

## 有限会社「メグミファーム」

有限会社「メグミファーム」は、建設会社である株式会社「恵工業」が別組織として設立した。

恵工業は、県内大手の建設会社で住宅建築、下水道工事を得意としていたが、独自に畜舎及び堆肥舎等の建設工事を通じて滝沢村花平地区の酪農家とのつながりが深い会社でもあった。

今回、有限会社の設立は、将来の公共事業の縮小や作業員の有効活用を見据えたもので、コントラクターとして活動することにした。やがては農地取得等も描いている法人である。

本年度は、花平地区の酪農家の石川賢一さんが農地保有合理化事業により、公社から借り入れた牧草畑（離農跡地 9.3ヘクタール）のうち、5ヘクタールの作業（粗飼料収穫・調整作業）を請け負った。

### 【法人の概要】

名称：有限会社メグミファーム  
設立年月日：平成16年11月26日  
代表取締役社長：大石秀行 氏  
出資金：3,000千円

## 農事組合法人「葛巻百笑組合」

農事組合法人「葛巻百笑組合」は、葛巻町吉ヶ沢地区の酪農・肉用牛農家6戸が設立した法人である。この6戸は昔から牧草の刈り取り、乾燥、収穫作業を共同で行っており、今回、家畜排せつ物法に基づく対応で、共同で堆肥舎を整備するのを契機

### 【法人の概要】

名称：農事組合法人葛巻百笑組合  
設立年月日：平成16年9月7日  
代表理事組合長：中家重夫 氏  
出資金：1,200千円

に、粗飼料収穫・調整作業についても新たに法人を設立してコントラクターとして活動することにした。

「百笑」は、「百回笑い、笑われ、百歳まで笑って生きる」という意味合いで、「百姓」を文字って作られた。

本年度は、酪農家の中家重夫さん（法人の代表理事組合長でもある）が借りている牧草畑 12 ヘクタールのうち、5 ヘクタールを中心に、粗飼料収穫・調整作業を請け負った。

### **公社主催による細断型ロールペーラ実演会を開催**

細断型ロールペーラは、農業生物研究機構・生研センターと機械メーカーが共同で開発し今年4月に実用化された機械で、飼料用トモロコシのサイレージを効率的に作る作業機である。従来の半分以下の労力ですむ事やできた製品も高密度にラップされており保存性が良い事、ロスが少ない事等、何よりも牛舎の回りに置ける事から、今後普及する機械である。

県農業研究センター畜産研究所でも生研機構から機械を借りて、労力、ロスされた物の品質等を実証研究しているところである。

公社としても、葛巻町及び滝沢村で法人コントラクターを立ち上げ、事業実績を残せた段階で更なる普及を図るべく、機械の実演会を開催した。葛巻町及び滝沢村にそれぞれ一台、細断型ロールペーラを公社リースにより配置したところであるが、県内でも実演等が行われているが、本格的な生産のための導入は県内では初めてである。

当初、導入2町村で実演会を行う予定であったが、天候に影響され、葛巻町のみの実演会となったが、興味のある農家、市町村、農業改良普及センター、JA等の担当者が参集した。

コーンサイレージは栄養価、可消化養分総量（TDN）ともに高く、優れた飼料の一つである。しかし、収穫・調整作業に労力を要するため、作付面積は減少の一途をたどっている。農家からは、作業の省力化を図る生産機械の開発が求められていた。そこで、開発されたのが細断型ロールペーラである。この機械を用いた体系により、飼料用トモロコシの収穫・調整において、従来多大な労力を要求されていた作業が軽減される。

具体的には、マイコン内蔵のコントロールボックスでロール成形からネット巻き、放出来まで全自動運転で可能となった。

実際の作業では、ロールペーラをトラクターで牽引して圃場内で飼料用トモロコシを収穫、細断してロールに成形、密度の高いロールペールにし、ネット巻き（ネットで結束）にする。更に、ラッピングマシンでロールペールを速やかに密封する。生産されたロールペールは直径約80cm、高さ80cm、重量は約300kgと非常に高密度である。

### **細断型ロールサイレージの評価**

収穫された細断型ロールサイレージは、既に利用し始めているが、早くもこうした取り組みを聞いた農家からは「来年は我が家もお願いしたい」という声が組合に届いている。また、サイレージの品質に対する評価も高く、「牛の食い込みがいい」、「捨てる場所がない」といった声が聞かれ、来年度は、コントラクターとしての実績もさらに伸びるものと期待される。

一方、1ロール当たりネット約200円、ラップフィルム約300円で計500円ほどの製造コストがことが問題点の一つであるが、従来のバンカーやスタックサイロ体系と比較して労力が半分で済むことを考慮すれば十分に導入した価値があったと考えられる。

### **終わりに**

公社では、「農業者のため汗をかき知恵を出そう」を合い言葉に各種事業に取り組んでいる。

畜産農家のみなさんが本事業を契機に少しでもゆとりができるように、また、各地域

にコントラクター組織が育ち、お互いに協力できる体制ができることによって岩手に限らず、畜産がますます発展することを願っている。

【一連の写真】



滝沢のコーン畑



葛巻のコーン畑



コーン刈り取り

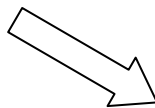
細断型ロールペーラ



ペールをラップする



高密度でペールされネット巻きされて



宅配されたコーン



宅配されたコーン